

ご使用前に…

- 製品ロットにより色調等の外観に差異が生じることがありますので、異なるロットのものを隣接して使用しないでください。
- 日射が直接当たる外壁ガラスに使用する場合、網入り、熱線吸収、傾斜しているなど、日射条件が厳しいガラスに貼ると、熱割れを生じる場合があります。ご使用前に必ずご確認ください。

施行時の注意 (施行に必要なゴムスキージーは、フィルムのご購入店でお求め下さい)

1 水溶液を作ります




中性洗剤5～6滴

500mlの水

※フィルムの位置あわせを容易にするために、ご使用ください。

2 ガラス面をきれいにします



1 水溶液を吹き付けます。

2 スキージー(ヘラは別売)で汚れを取り除きます。

3 ペーパータオルで汚れを取り除きます。

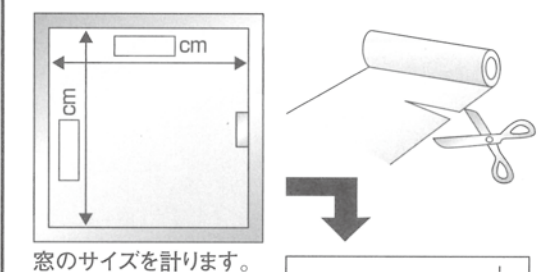
4 **ピカピカ**

※取れにくい頑固な汚れはカッターナイフなどで削ぎ落としますがガラス面を傷つけないようご注意ください。

※防水および、汚れ防止のために床にシートや新聞紙などを敷いて作業してください。

※ティッシュペーパーやケバのタオルはほこりの原因となりますのでご使用を控えてください。

3 フィルムをカットします



窓のサイズを計ります。

※通常の内装用フィルムより薄く折れやすいため、取扱いにご注意ください。

窓のサイズより1～2cm大きくフィルムをカットします。

4 はくりフィルムをはがしながら水溶液を吹き付けます



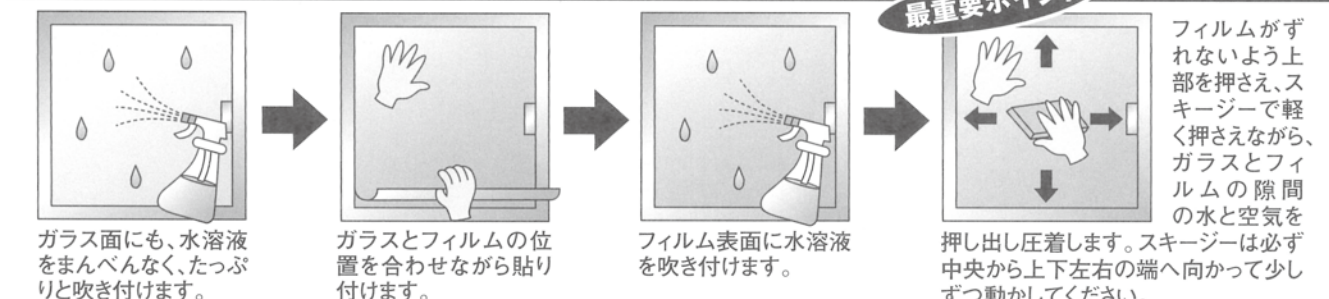
セロハンテープを使ってはくりフィルムをはがします。

フィルム粘着面

はくりフィルム

はくりフィルムをはがしながら水溶液をまんべんなく、たっぷりと吹き付けます。

5 ガラス面に貼り付けます



ガラス面にも、水溶液をまんべんなく、たっぷりと吹き付けます。

ガラスとフィルムの位置を合わせながら貼り付けます。

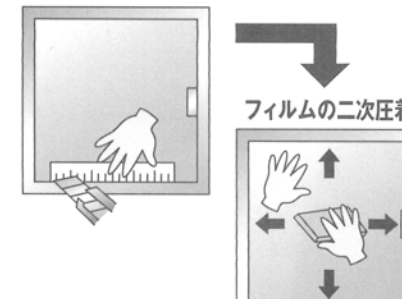
フィルム表面に水溶液を吹き付けます。

最重要ポイント

フィルムがずれないように上部を押さえ、スキージーで軽く押さえながら、ガラスとフィルムの隙間の水と空気を押し出し圧着します。スキージーは必ず中央から上下左右の端へ向かって少しずつ動かしてください。

※フィルムはガラスの室内側の面に施工してください。(内貼)

フィルムのエッジカット



フィルムの二次圧着

6 仕上げにフィルムの余分な部分をカットします

フィルムのエッジカット

- ① 適当な厚みのスペーサー(三角定規やプラスチック板)を窓枠に当て、さらにカッターをスペーサーに当てがい、スペーサーとカッターを同時に滑らせる様にしてカットします。(但し、強化ガラスや金属皮膜面へ施工した場合は除きます)
- ② エッジスペース(フィルムの四辺とコーキングとの隙間)は、原則として幅2～3mm程度にしてください。スペーサーの厚みでエッジスペースを調整できるため、いくつかの厚みのスペーサーを用意すると便利です。

<注意点>

- ※コーキングにフィルムのエッジがかぶると、その部分からシワが発生したり、浮き上がったり、ごみを吸い上げたりしますので、エッジスペースは必ずとってください。
- ※エッジスペースの幅は、必要に応じて施工と打ち合わせて決めてください。
- ※ガラス破壊時には、窓枠より完全にガラスが脱落する事なくガラス片が窓枠に残存するため、エッジスペースがあっても飛散防止効果は維持します。
- ※強化ガラスでも、この程度のエッジスペースであれば飛散防止効果は維持します。

フィルムの二次圧着

- ① フィルム表面に水溶液を吹き付けます。
- ② 四辺のエッジスペースが均一であることを確認しながら、スキージーでフィルムを二次圧着します。
- ③ 最後に、フィルム表面に水あるいは水溶液を吹き付け、スキージーで軽く清掃します。市販のガラスクリーニング用の幅広いスキージーを使用すると便利です。
- ④ 同時に、サッシ周りの水分をペーパータオルなどで拭き取ります。

<注意点>

- ※フィルムエッジの浮きを予防するために、エッジ部分は特にしっかりと圧着し、同時に水分は完全に拭き取ってください。

施行後の注意

- 施工直後は接着力が低いのでフィルムに触れないでください。特にフィルム端部にはご注意ください。
- 通常1日たてば触っても問題ありませんが、力を加えないでください。
- 施工後ガラス面から見て、むらに見える場合がありますが、施工時の水分が乾燥すれば消えます。乾燥終了までの目安は、夏季は1週間、冬季は1ヶ月程度です。
- 清掃は、乾燥終了後より行ってください。
- 貼り付けてあるフィルムは一度剥がすと接着しなくなりますので、ご注意ください。
- フィルム表面に粘着テープ等を貼付しないでください。フィルム剥離の原因になります。
- 鋭利なもの(ボールペン、はさみ等)や硬いもの(靴、鞆等)でこすらないでください。フィルム表面にキズがつきます。
- マジック等で字を書かないでください。
- スポンジたわし等の表面が柔らかいものを使用し、強くこすらないよう、一定方向に水洗いしてください。
- ブラシ、研磨剤、研磨剤の入ったスポンジ等は、使用しないでください。砂ほこりなどで汚れている布も、フィルムを傷つける原因になります。
- 乾拭きはしないでください。
- 汚れがひどい場合は市販の中性洗剤を使用してください。
- 硬いものや鋭利なほこりが付着している場合には、事前に水や十分に水を含んだ布などで洗い流しておくことをおすすめします。(無理にこするとフィルムをキズつけます。)
- 窓ガラス清掃用のゴムスキージーを使用する際には、スキージー本体の金属部分(特にエッジ部分やボルト)がフィルムに接触しないよう、注意してください。